

# 「慢性腎臓病について」

内科医

西川 にしかわ  
恵美子 えみこ

山香病院だより vol.180

みなさんは「腎臓」が体のどこにあるかご存知ですか？

腎臓は、体の後ろ側、腰のやや上側に左右にひとつずつあります。空豆のような形をしており、1つが大人の握り拳1つ分ほどの大きさです。

この腎臓は私たちの体にとつて大切な、様々な働きをしています。一つは、尿の産生です。

腎臓にはたくさんのお血が集まっており、血液を腎臓でろ過することで体に不要な老廃物や水分を尿として体の外に排出しています。そのほかに、意外に思われるかもしれませんが、貧血や血圧、骨に關わるホルモンも腎臓で調整されています。

腎臓病に関する検査にはいくつもの種類があります。

まず、尿検査では尿中にタンパク質や血が出てきていないかを見ることができ、尿をつくる際のろ過装置に何らかの異常があると、本来体に必要なたんぱく質も尿に漏れ出てきてしまい尿タンパク陽性ということになります。血尿は、尿の通り道のどこかからの出血を表しており、必ずしも腎臓の病気が原因というわけではありませんが、他の検査の結果と合わせて参考になります。血液検査では、腎臓がどれくらい働いているかを知ることができ、検査の結果に「糸球体濾過量」や「eGFR」と書

かれていているものが腎機能を表しており、100%中何%くらい腎臓の働きがあるかを知ることができ、そのほかにも尿毒素や貧血、電解質の値も参考にしています。また、エコー検査やCTなどで腎臓の形や大きさなども確認します。これらの検査で腎臓の病気が疑われれば、さらに詳しい血液検査を行ったり、腎生検という腎臓に針を刺し、組織を取ってきて顕微鏡で観察するといった検査を行ったりして診断を確定させます。

タンパク尿などの検査異常や、腎機能低下が3ヶ月以上続いた状態を慢性腎臓病と言います。腎機能の数値が悪くなり、尿タンパクが増えるほど腎臓病の状態は悪くなり、心血管疾患や死亡などの危険性も大きくなります。

これら慢性腎臓病の原因としては、腎臓そのものの病気や、膠原病など他の病気が原因の場合もあるので、高血圧や糖尿病、肥満など生活習慣病も大きな原因となつていきます。実際に、末期腎不全となり血液透析が必要になる方の最も多い原因は糖尿病です。

腎機能が悪くなつてきても最初はほとんど自覚症状はありません。しかし、腎機能低下が進んでくると体のむくみやだるさが出てくる様になります。さらに進むと日常生活にも支障をきたすようになります。残念ながら、現代の医学では腎機能を元の健康な状態に戻すことは難しいため、治療の目標は、透析などの腎代替療法が必要な末期腎不全に至らないように、腎機能低下の進行スピードを少しでも遅くすること、脳卒中や心筋梗塞などの心血管疾患にならないようにすることです。

検査などで尿検査の異常や腎機能低下、生活習慣病を指摘されたら早めに受診し、腎臓を守るようにしましょう。

検査などで尿検査の異常や腎機能低下、生活習慣病を指摘されたら早めに受診し、腎臓を守るようにしましょう。

## 国民健康保険及び後期高齢者医療制度加入者の方へ

### 新型コロナウイルス感染症に係る傷病手当金の支給対象期間の延長について

杵築市国民健康保険または大分県後期高齢者医療制度に加入している方で、新型コロナウイルス感染症に感染の疑いがあっても仕事を休んだことで給与の支払いを受けられなかった方を対象に支給する「傷病手当金」の適用期間を延長いたします。

**【適用期間】** 令和2年1月1日から令和5年5月7日までの間で、支給対象の初日がこの間に属していること。

※詳しくは、広報「きつき」7月号または市公式ウェブサイトでご確認ください。

☎市民生活課 国保係 ☎0978-62-1806